

## てんかん発作抑制 芍薬含む処方有効

**Q** 四十歳、女性。数年前から頭痛が頻繁に起こり、「ふーっ」と意識がなくなるような感じがしたり、物が大きく見えたり、逆に小さく見えたり、動悸（どうき）がするようになりました。検査の結果、脳の血管異常によるてんかん発作とのこと。現在抗てんかん薬を服用していますが、頭がぼんやりして気分がよくありません。

**A** 手紙によれば「脳動静脈奇形」との診断である。この病気は脳血管の動脈と静脈の一部が複雑に入り組んで、血管造影検査では毛糸を巻いたように見える。三割程度てんかん症状が見られるとされている。

てんかんは基本的には脳細胞の一時的な異常

興奮と考えられる。てんかんにも種々のタイプがあり、現代医学でもそれぞれ治療薬が異なる。漢方薬にも種々の抗てんかん作用をもつものがあるが、発作を抑える生薬として古来より用いられた代表的な薬は芍薬（しゃくやく）である。東西の古典の記載を受けて現代薬理学的にも中枢抑制作用や抗けいれん作用など、てんかんに関する有効性が証明されている。

臨床経験としては小柴胡湯合桂枝加芍薬湯（しょうさいことうごうけいしかしゃくやくとう）という二種の漢方薬を合わせた処方が最もよく研究され、てんかん発作の予防と抗けいれん剤の減量に一定の効果を認めている。芍薬以外では釣藤（ちようとう）を含む処方などが試みられている。